

ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター養成プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容:

座学だけでなく以下の内容を実施。

- ・ ICT教材及びその反転授業
- ・ 先進事例視察、ケースメソッド演習
- ・ 研究(事業プラン策定)

訓練の対象となる業種・職種等:

- ・ 人と人、人と技術、人と社会、様々な組合せを紡ぎ、新ビジネスを生み出すイノベーションに取り組むことを目指す業種・職種

(受講のメリット)

- ・ 機械やAIで代替できない創造性や感性といった能力・スキルを有しオープンイノベーションを推進するコーディネーターを目指すことができる。
- ・ 具体的には、課題解決力、探索力、巻き込み力、企画発想力、事業推進力を身につけます。

(実施した時の環境等)



訓練の内容: 講義・ワークショップ, 研究(自己学習)
(一部)ICT教材を活用したeラーニング

募集期間 : 令和2年4月9日～6月1日

応募人数 : 7人

受講人数 : 7人(修了生:5人)

受講日時 : 6/6, 8/1, 8/19, 9/5, 10/10, 10/24, 11/7, 11/28,
12/19, 1/9, 1/23, 2/1 土曜日午後(13:30～17:30)

および 9/19～21 祝日(集中講義) , 個別指導

受講料 : 無料

社会人受講生のための配慮: 授業風景を録画し欠席者に配信。

個別指導や個別フォローアップを行った。

区分 イノベーション人材育成

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容:

- ・ プレスリリースやSNSでの発信を教えられる講師の確保。
- ・ ケースメソッド演習の事例となる情報等の事前入手。

訓練時間数:

- ・ 先進事例視察について、受講者の状況に応じて連続開催とするか、分割とするかを判断。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

- ・ 先進事例視察について、ICT教材などで取り上げた事例や近隣圏域など、受講者がイメージしやすい事例が好ましい。
- ・ ケースメソッド演習では、受講者間のディスカッションが活発に行われるように配慮することが好ましい。



(受講者等からの声)

- ・ 本業をしながら学ぶというのは大変でしたが、変化の激しい時代なので必要なプログラムだと思いました。
- ・ 様々な業種の方と知り合え、意見を聞くことができ刺激を受ける事ができたプログラムでした。
- ・ ビジネス・クリエイティブ・コーディネーターの役割は、これから社会を良くしていくうえでとても重要になってくると思いますし、自分も今までの経験に磨きをかけ、その役割を担えるようになりたいと思っています。

(受託事業者) **国立大学法人金沢大学**

(詳細・問い合わせ先)

厚生労働省HP: URL https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaiatsu/program_development_text.html#innovation
厚生労働省人材開発統括官付参事官室(人材開発政策担当)政策企画室事業係 03-5253-1111(内線5648)